

東日本大震災発生から1年

被災地の皆様にご心よりお見舞い申し上げます

豊島区と防災協定を締結する六市五町の共同宣言

に基づき、町では茨城県常陸大宮市へ3月12・14日に救済物資搬送を行い、後日、常陸大宮市長が来庁し三芳町との「絆」を再確認。

5月には町から保健師を福島県大熊町に派遣。11月に行われた「おおくまふるさとまつり」で蒸かしイモの提供を行いました。大熊町は福島第一原発事故の影響で、住民全員が現在も町外避難を余儀なくされています。

また、住民の皆さんからの救済物資の受け入れも行いました。いただいた物資は当時、ふれあいセンターに避難されていた被災者に提供し、さらに東人間青年会議所の協力で、被災地に送られました。

被災地支援



災害ボランティアバスパックを実施

町と社会福祉協議会では災害ボランティアバスパックを企画し、5月14日に町長を含めた町職員が、5月27日、6月24日、7月15日には住民の方々が被災地へ向かい、ボランティア活動として、ヘドロや瓦礫の処理などを行いました。

広報みよし7月号では、実際にボランティアに参加した方のコメントを掲載し、被災地への思い、ボランティア活動を終えての思いを伝えました。

広報みよし7月号では、実際にボランティアに参加した方のコメントを掲載し、被災地への思い、ボランティア活動を終えての思いを伝えました。



震災の日。信号機が止まり警察官が手信号で誘導

三芳町では震度5弱

平成23年3月11日(金)、午後2時46分、東日本大震災発生が生じ、三芳町では震度5弱を観測。地震発生直後「三芳町警戒本部」を設置。災害対策グループを中心に各課が連携して対策にあたりました。

各地で停電が起り、電車がストップし、信号機も止まり、渋滞が発生。多くの人が自宅になかなか帰宅できない「帰宅困難者」に。川越街道には電車が止まっているため、長距離を歩いて帰宅の路につく人が多くみられました。

「ガソリン不足」「水不足」「食糧難」「計画停電」……。日本中が混乱に陥ったあの日から1年が過ぎました。震災前の日常に戻りつつありますが、被災地では復興に向けて歩んでいる途中です。震災を決して風化させないように、この一年を振り返ってみてください。

震災から1年 防災担当課より

長く大きな地震とは縁のなかった三芳町でしたが、今回の震災では震度5弱を観測し、瓦の崩落や停電、帰宅困難者の発生などの被害がありました。また、震災の影響は様々な混乱を生み、私たちの日常と意識を大きく変えました。

いつ起こるか分からない震災には、日々の準備が不可欠です。非常用の水や食料などを揃えておくことはもちろんですが、ものごとき心強いのは、地域のつながりです。被災地では地域で共に支え合って困難を乗り越えている最中です。私たちもその姿に学び、日ごろから、近くにいる人がいたら声をかけ、手を差し伸べることができ「共助」の地域づくりを進めていけたらと思います。



【問い合わせ】
地域振興課防犯防災係
(内線 265・266)

家庭での防災対策

いざというときのため、普段から防災意識を持ちましょう

家具等の転倒防止…家具の固定の方法は色々ありますが、一般的にはL金具や支え棒で固定します。また、冷蔵庫や大型テレビなども危険なので、転倒防止ベルトなどでの固定が必要です。

家具の固定は就寝場所だけではなく、避難路を確保するために扉などの出入口付近にある物についても必要です。

壁や家具に傷が付いてしまいますが、命には替えられません、是非実行してください。※二段重ねの家具などは、つなぎ目部分の固定も必要です。

食糧飲料水等の備蓄…町では災害に備えて災害物資を備蓄していますが、災害の被害状況によっては援助を受けるまでには時間がかかる場合も考えられます。各家庭でも、3日程度の非常用物品の備蓄をお願いします。

避難所及び避難路の確認…町では各小中学校を、避難場所として指定しています。日頃から、ご自身の避難場所、避難経路の確認をしておきましょう。災害の状況によっては、予定していた避難路が寸断される状況も考えられますので、複数の避難経路の確認が必要です。

※避難する場合は、単独で行動するのではなく隣近所に声を掛け合い避難しましょう。

義援金と被災地へのメッセージ



原発事故による放射性物質の対応



随時、町ではホームページ上などで放射性物質の検査結果を公開しています。また全国に先駆け、農業者が行う農産物の放射線影響自主検査の費用に対して、その一部を補助する制度を創設しました。

町内のボランティア団体「ギフト」が被災した障がい児のために、絵やエコバックを売った収益を送る即売会を実施。メディアに取り上げられました。

その他にも町の行事の際に募金を募り、1月末日現在で集まった義援金の総額は1千7百万円にのぼりました。

今後も町では、できることを考え、支援を継続していきます。

9月4日、東日本大震災復興支援をテーマに掲げ「みよしまつり」を開催。被災地に向けたメッセージを来場者からもらい、10月号の広報に掲載。さらに復興支援Tシャツ、エコバックを販売し、その収益とまつり協賛金等の収入の一部を義援金として被災地に送りました。